

持続可能性の建築工法 《エコ・ビルド》 完成しました！



特許取得済建築工法

世界初！再利用できる建築

世界初の「建築物として再利用できる工法」（当社調べ）



株式会社 東京オデッセイ
一級建築士事務所&CREATIVE

持続可能性があり環境に負荷を与えない
まさに持続可能な開発目標に合致した
建築工法をご提供できるようになりました。

米国や欧州を中心に、社会的な意義を持たない会社やブランドは支持されなくなっています。
単純な CSR 活動だけでは不十分になってきており、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の動きが国内でも広がっています。

ブランドが社会問題や政治のスタンスを取り（ブランドアクティビズム）、社会課題をマーケティングにどう活かすかを考える時代がやってきました。

私たち建築業界に従事するものとして、その課題は非常に大きいと考えています。

建築物を解体した新しいものを作り出すスクラップ & ビルドの持続可能性は極めて低く、廃棄物が与える環境への負荷は極めて大きいものです。

そこで私たちは【再利用できる建築システム】を構築し、持続可能性に貢献できる建築工法を考え、広く使っていただくことにご提案するものです。

持続可能性に溢れた「再利用できる建築」=ECO BUILD は、
建築が抱える社会的課題を解決する工法です。





特徴 - 01

既存建築工法と比較し

環境への負荷を大きく軽減できる

日本にて製造・建設が占める温室効果ガス(CO2)排出量は30%
鉄鋼製造においては、12%を占めます。

そのため、鉄鋼材の使用量削減！環境負荷の小さな建築工法の採用！は地球環境の負荷削減に欠かせません。



《在来建築工法》	約1/3	《エコ・ビルド》
鉄鋼材使用量：190,000kg	⇒	鉄鋼材使用量：65,000kg

※弊社標準規模：3000㎡で試算

鉄鋼材料-125,000kgの削減！

温室効果ガス換算=207,500kgの削減！

(鉄鋼-1kg=CO2-1.66kg換算、日本鉄鋼連盟資料より)

森林11,000㎡の保護！に相当します。

(日本森林のCO2吸収量-18.5t/ha/年換算、京都議定書資料より)

また、鋼材使用量削減に伴う軽量化により
下記項目も削減となります。

- ・コンクリート使用量の削減による環境負荷
- ・輸送量削減による環境負荷

特徴 - 02

既存建築工法と比較し

再利用可能な驚きの建築物



建設における環境負荷を考えた場合、**資材調達～施工～運用～解体～廃棄**で考える必要があります。技術の進歩により建物の長寿命化は進んでいますが、スクラップ&ビルドが問題視されているように建物も使い捨てのように計画され、建物は短い期間で役目を終え解体廃棄されていくのが現実です。今後は、**役目の終えた建物の再利用・建築部材の再利用**を考えていく時代です。

《エコ・ビルド》
部材のモジュール化・標準化により、
鉄骨部材をそのままエコ・ビルド部材として再利用が可能です。

解体～廃棄の環境負荷を削減できます。

※また、鉄骨以外の部材においても再利用できる方法を開発中です。

特徴 - 03

既存建築工法と比較し

地面に優しく配慮できる基礎



「地盤」は**支持機能・保水機能・通気機能・浄水機能**など多くの機能を有することから近年は「地盤」も環境の重要な構成要素のひとつとして認識されるようになりました。建物の建設においては、基礎が必要となり地盤を掘削する必要が生じることから、**基礎設計においても環境に配慮し**、地盤の環境負荷低減に務めることが求められます。

《エコ・ビルド》

部材の省資源化にともない、建物自体の重量削減が可能で、
通常の基礎に比べて簡易な基礎とすることが出来ます。

地盤への荷重を抑えることにより、環境負荷低減につながります。
掘削量の削減により、地盤の機能低下を防ぎます。

※周囲地盤への荷重影響や、地下水への影響などを最小限に止めることが可能

特徴 - 04

既存建築工法と比較し

工期が短くその間の環境負荷が減少



建築施工においては、振動・音など周囲への環境影響が少なくありません。
近年の建築は大型化に伴い、工期も長期化することが多く、トータルの環境負荷も大きくなります。
環境負荷低減のためには、工期の短縮化も重要となります。

《エコ・ビルド》

前述した特徴

- ・部材のモジュール化、標準化！
- ・簡易な基礎！
- ・掘削量の削減！

また、建物重量の低減に伴い

- ・杭工事が不要！

※在来建築工法と比較して

施工期間の短縮！

※周囲環境への環境負荷の低減

設計手法についても標準化を図っていますので計画～施工の期間においても短縮が見込めます。

株式会社東京オッセイ活動領域

すべての人々が「幸せ」を実感できる社会への貢献を目指して

私たち東京オッセイは、創業以来40年あまり商業施設に特化したデザイン集団として活動して参りました。

昭和、平成と様々な時代のデザイントレンドや技術をビル建築やインテリアデザインに反映し、

生活者が驚きと感動をもって出会う場を創造しています。

令和の時代を幕明けに「新しい価値観」「新しい生活」「新しい技術」と今までの社会とは大きく異なる生活がスタートしていきます。

これからの時代の中で私たちが今まで培って来たノウハウと新しい技術を融合させて「幸せ」を感じることのできるデザイン、設計をご提供してまいります。

そして私たちなりに社会課題の解決を目指し、社会への貢献を実現していきます。



《エコ・ビルド》

特許工法・設計販売業務

※世界初再利用建築による社会課題の解決への取り組み

リアル店舗におけるデジタルインフラ、
デジタル商空間の企画・プロデュース

リアルとデジタル、
バーチャルとの融合デザインの試み





**Tokyo
ODYSSEY.**

ODYSSEY is the meaning of the
"long adventure trip".
We start on a journey with you to the
《adventure trip》

一級建築士事務所「株式会社東京オデッセイ」
東京都知事登録第 49424 号

東京本社
東京都港区芝 2-10-6 EARTH BLD3F
〒105-0014
PHONE03-6459-4022
FAX03-6459-4034

大阪オフィス
大阪市西区西本町 1-4-1 オリックス本町ビル 7F
〒550-0005
PHONE06-6543-1220
FAX06-6543-1221

業務内容
建築設計デザイン、インテリアデザイン
商業施設における企画、調査及びコンサルティング
グラフィックアート、オブジェ制作



1980
企業の販売 PR イベントなどの
企画会社として創業

1985
町づくり商店街等の
中心市街地活性化
などに参画

1990
建築インテリアデザイン部門
グラフィックデザイン部門
を設立活動

1995
商業施設、オフィス、ショールームなど
数々の実績を作る
JCD 賞など受賞

2002
本格的に
建築設計デザイン会社として
株式会社東京オデッセイに統合

2005
アミューズメント施設への
設計デザイン進出

2010
大阪オフィス設立
東京オフィスと 2 拠点体制
ホテル設計デザイン
商業施設ビル等設計デザイン多数

2015
弊社特許商品
ローコスト建築システム
《風林火山》本格的販売開始

2016
谷川俊太郎氏による《社詩》完成
東京オデッセイ
MISSION&COREVALUE 設置

「生活者のこころの動きをデザイン」し
経済活動の現場をダイナミックに活性化させていくことこそが
わたしたち東京オデッセイの思いです。

商業施設の建築設計・インテリアデザイン・グラフィックデザインを通し
その思いを伝えていきたいと考えています。

私たちはホテル、レストラン、ショールームなど数百店舗を超える
商業施設をつくってまいりました。
日本の経済活動を支える商業空間をつくってきたことは、
非常に価値のあることだと思っています。

「建築設計デザインする設計者が全てのデザインをする」という理念で、
空間におけるデザインをトータルで完結できるスキルを
スタッフ一人一人が持っているユニークな会社です。
特に商業施設の設計デザインは、その経済活動の場づくりであり、
マーケティングと密接にリンクしています。
生活者の購買動機や行動パターンの因子を解析しながら、
商品との出会いに感動や喜びや驚きを持っていただけるような空間、
場の創造に注力いたします。
単にかっこいいというだけでなく、
マーケティング因子を埋め込みながらの設計デザインをご提供いたします。

平面図など専門的な資料から完成した商業施設をイメージすることは非常に難しいことです。
設計図面で感じた印象と完成された施工後の印象では違うと感じてしまうこともあるため、
私たちはリアルタイムレンダリングを駆使し、
VRCG を使い様々な角度から、物件の完成予想をあたかも現実空間として
ご覧いただきながらデザインを提案させていただいています。
お客様のイメージするものを確実に現実化するために、
細かく丁寧な手順で提案を進行してまいります。

商業デザインをしていくにあたって大事なことは、
商業施設はアートや芸術のような作品ではなく、
その時代時代の商業活動をあらわす鏡だと思っています。
人々の嗜好、あるいは流行によって劇的に変化していくものであり、
それはある種、劇場で上演されるひとつの芝居のようなものではないかと考えています。
私たち設計デザイナーも、舞台演出家のようなスキルを学び、
消費の場の驚きと感動をさらに高めていく努力をしなくてはなりません。

SNS の進化により、良いことも悪いことも、
あるいはほんの小さなつぶやき大きな影響を与える時代になっています。
そんな微細な変化も見逃さず設計デザインに取り込んでゆく努力を
日々積み重ねて参ります。